

製品名: Brk ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07656**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	PTK6
別名	PTK6; BRK; Protein-tyrosine kinase 6; Breast tumor kinase; Tyrosine-protein kinase BRK
遺伝子 ID	5753.0
SwissProt ID	Q13882
免疫原	抗血清はヒト乳がんキナーゼ由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 402-451

背景

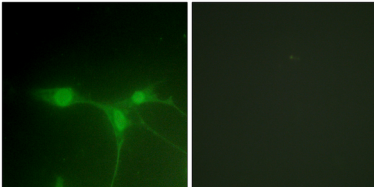
タンパク質チロシンキナーゼ 6 (PTK6) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞質非受容体型タンパク質キナーゼであり、上皮組織において細胞内シグナル伝達因子として機能する可能性がある。乳腺上皮細胞におけるこの遺伝子の過

剰発現は、上皮成長因子に対する細胞の感作を招き、部分的に形質転換した表現型をもたらす。この遺伝子の発現は、一部の乳がんにおいて低レベルで検出されているが、正常乳腺組織では検出されていない。コードされるタンパク質は自己リン酸化を受けることが示されている。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じる。 [RefSeq 提供、2012年1月],触媒活性: $ATP + a \text{ [タンパク質]-L-チロシン} = ADP + a \text{ [タンパク質]-L-チロシンリン酸}$ 。酵素調節: 活性化酵素は基質へのアクセスが容易になるようです。機能: KHDRBS1、KHDRBS2、KHDRBS3、STAP2/BKS をリン酸化します。上皮組織では細胞内シグナル伝達因子として機能する可能性があります。乳腺細胞における過剰発現は、EGF に対する細胞分裂促進的な感作を引き起こし、部分的に形質転換された表現型をもたらします。核内に存在することは、腫瘍の進行抑制に関連しているようです。PTM: 自己リン酸化。Tyr-447 のリン酸化は、酵素の自己阻害につながる可能性があります。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。BRK/PTK6/SIK サブファミリー。類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。類似性: SH2 ドメインを 1 つ含む。類似性: SH3 ドメインを 1 つ含む。細胞内局在: 核内で KHDRBS1、KHDRBS2、または KHDRBS3 と共局在します。前立腺癌の分泌上皮細胞では、腫瘍の低悪性度領域では核局在が高く、高悪性度領域では核局在が低くなります。サブユニット: GAP-A.p65 と相互作用します (類似性による)。KHDRBS1 と相互作用します。リン酸化 IRS4 と相互作用します。組織特異性: 上皮特異的。結腸で非常に高く、小腸と前立腺で高く、一部の胎児組織で低レベルです。一部の乳がんでは低レベルで発現しますが、正常な乳がんでは発現しません。メラノサイトにも見られます。心臓、脳、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、膵臓では発現しません。

研究分野

-

画像データ



乳がんキナーゼ抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。